

サトウハチロー

秋風に母の声がある

秋風に母の声がある。

秋のひざしの中に 母の目がある

秋の雨に 母のつぶやきがある

秋の窓に 母の影がある

わたしは

秋の中に母の姿を描く

サトウハチロー

サルビアの花の紅は

サルビアの花の紅は

遠い日の わたしの帯の色

菊の花のすがすがしい白は

むかしの母の足袋の色

それもこれも いまは

涙の輪の中に にじんでゆれて・

サトウハチロー

あの子の残した上衣には

あの子の残した 上衣には

あの子の匂いが ついでいる

あの子の残した 手袋に

風の匂いが しみている

あの子のすわった 古椅子に

あの子の帽子を のせてみる

サトウハチロー

帰らないものと

知っていたながら

かえらないものと 知っていたながら

時計といつしよに 起きている母さん

つこたつとんの とち糸の

あせたみどりが 今夜も寒い

サトウハチロー

ひとりぼっちの母は

つぶやきました

ひとりぼっちの母はつぶやきました

灯りを消しましょう

灯りがついでいると

ひとりぼっちの 影がうつるから

ひとりぼっちの 影を見ていると  
ひとりぼっちが ハッキリわかるら・